

日遊協2016年ファンアンケート

離反対策は「当たり第1」だが「清潔感」「接客」が必須事項

広報調査委員会が昨年11、12月に全国の日遊協会員企業ホール等の来店客を対象に行った「2016年パチンコ・パチスロファンアンケート（ホール来店客調査）」結果が3月16日の2016年度第6回定例理事会で承認された。

今回は従来の定点観測に加えて、とくに離反リスク層・不満層に焦点を当て、ホールや遊技機に対する不満点や満足度、今後遊技を続ける意向があるか、ないか、離反防止の方向性等について調査・分析を行った。日遊協ではこれらの結果をもとに、遊技機やホールのあり方を含めて今後の業界づくりに役立てていく。

調査にあたり全国の日遊協会員企業ホール、九州地区遊技業組合連合会青年部、そして何よりもご来店のお客様方に多大なご協力を賜った。

2016年パチンコ・パチスロファンアンケート実施要領

- 調査目的=今後の業界発展に資することを目的に、パチンコ・パチスロファンの特性、プレー実態、ニーズ等とその動向変化を把握する。加えて、依存問題への対応ほか業界の行う様々な社会貢献活動・広報活動へのファンの認知度、評価について調査分析する。
- 調査期間=2016年11月下旬～12月中旬
- 調査対象=全国の日遊協加盟企業の有するホールの来店客及び九遊連青年部協力による加盟ホールの来店客。
- 調査方法=アンケート票を用意し、ホール従業員による聴き取り調査、または休憩スペースなどで回答者自身が記入する自記式調査。
- 協力ホール数=127ホール（前回136ホール）
- 回収サンプル数=2,242人（前回2,205人）
- 協力調査機関=(株)インテージ

23%が何らかの不満 離反リスク層は全体の7%

不満層とは<総合満足度>の「やや不満」「不満」「とても不満」の計23%で、10～20代3%、30～50代12%、60代以上8%を占める。さらに不満層のうちホール来場が低頻度（月1～2回程度以下）な層を離反リスク層と定義、全体の7%を占める。

表1

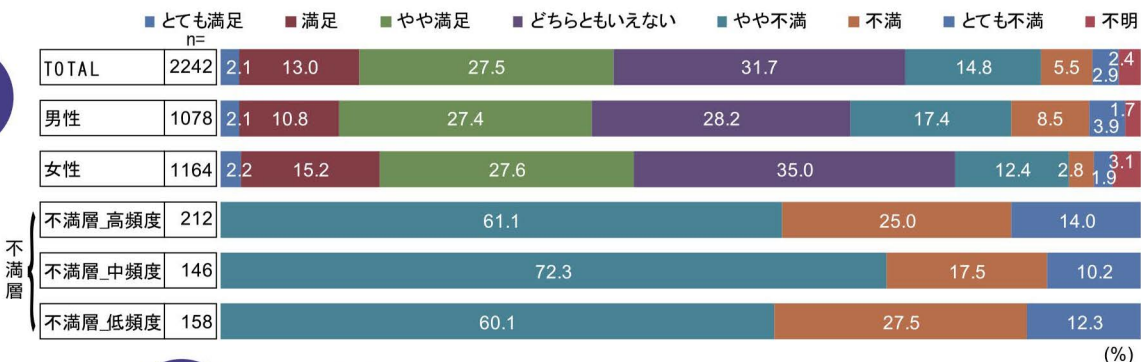


表2



不満層と低頻度層に焦点

前回(2015年)調査での総括を掘り下げ、①離反防止対策(不満層、低頻度層の不満要因の解消) ②低頻度層の遊技意欲の向上——の2点を新しい着眼点とした。

表3 ホールに行く頻度

高齢になるほど高まる

週1回程度以上が7割強あり、男女とも高齢になるほど頻度が高まる。不満層の低頻度では約7割が月2回程度。

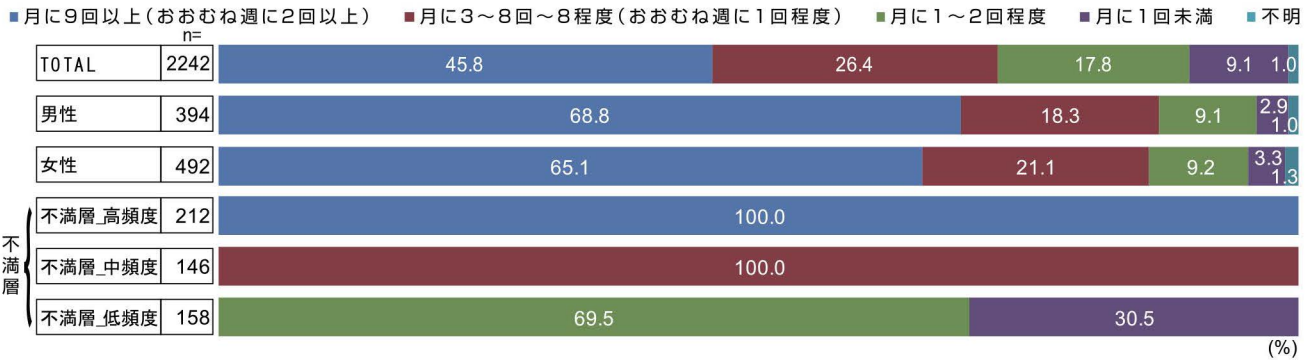


表4 ホールに行く目的

不満層でも多い「暇つぶし」

「時間が空いたときの暇つぶし」が4割強でトップ。「ストレス解消や手軽なレジャー」が3割強、「実益は兼ねるがあくまでレジャー」が13%弱で続く。「実益重視」は11%。不満層でも「暇つぶし」が4割強だが、このうちの高頻度は23%が「実益重視」となっている。

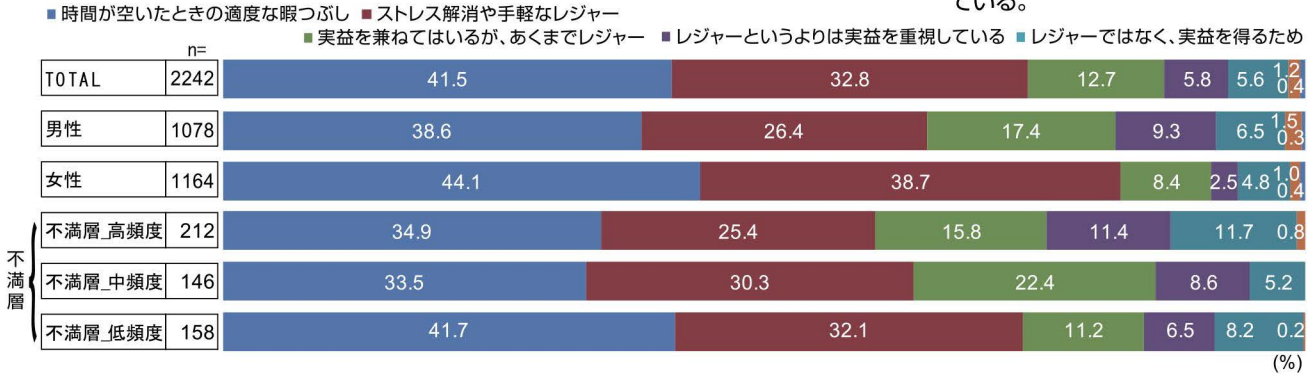


表5 あなたにとってパチンコ、パチスロとは「大事な楽しみ」が約4割

「1番ではないが大事な楽しみ」が約4割、「なくてもまったく困らない」が1割強だった。不満層の低頻度では「なくても困らないが、あったほうがよい」が5割弱いた。

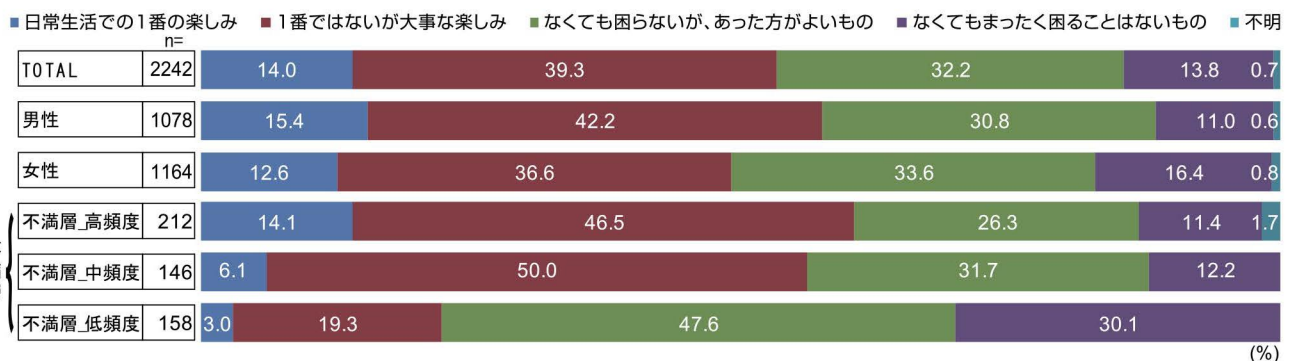


表6 娯楽に求めるもの 中頻度層に低予算志向

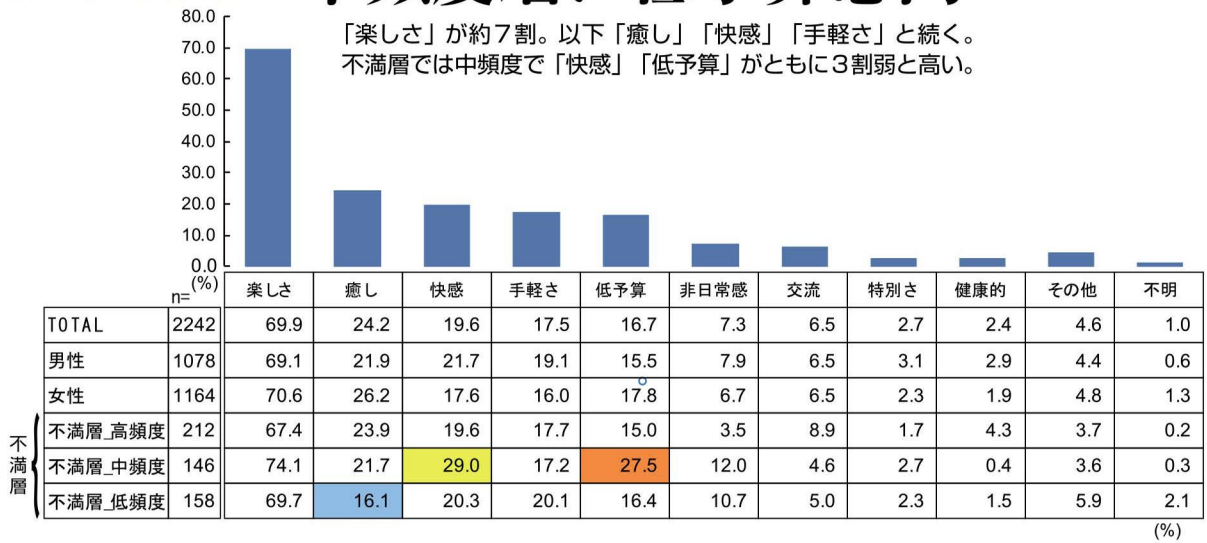
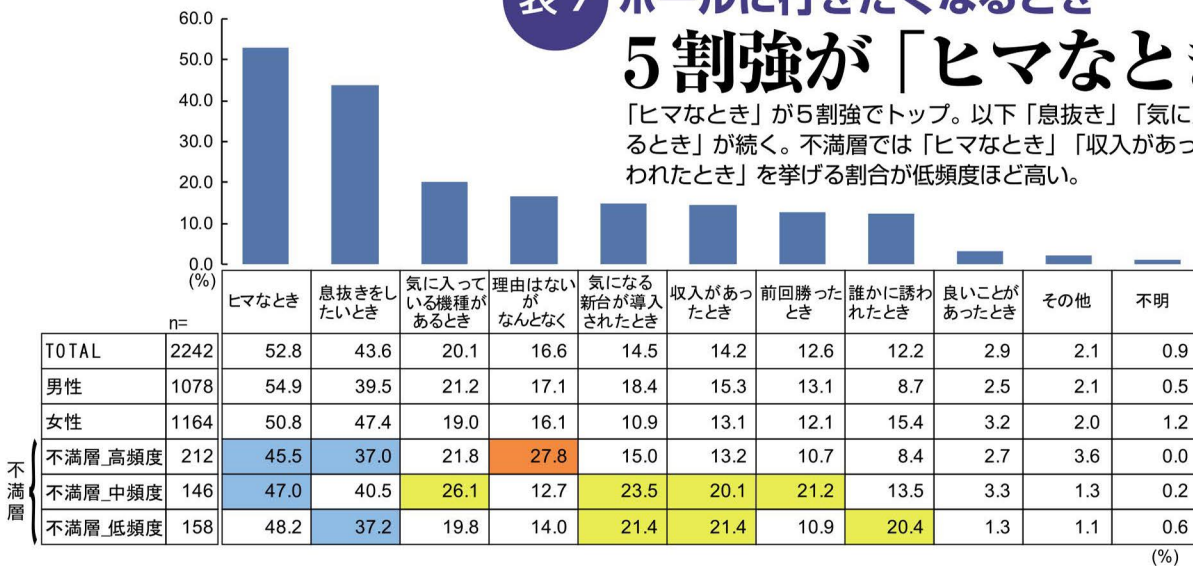


表7 ホールに行きたくるとき

5割強が「ヒマなとき」

「ヒマなとき」が5割強でトップ。以下「息抜き」「気に入っている機種があるとき」が続く。不満層では「ヒマなとき」「収入があったとき」「誰かに誘われたとき」を挙げる割合が低頻度ほど高い。



ホールに行く回数が増えた理由 「居心地」「低貸し」など

「居心地が良かった」「家族、友人と行く機会が増えた」「行きやすくなった」「低貸しで遊ぶようになった」が上位4項目。不満層の低頻度では「勝つことが多かった」「仕事を辞めた、仕事に余裕ができた」とする割合が高かった。

1回の平均遊技時間 長時間傾向の離反層

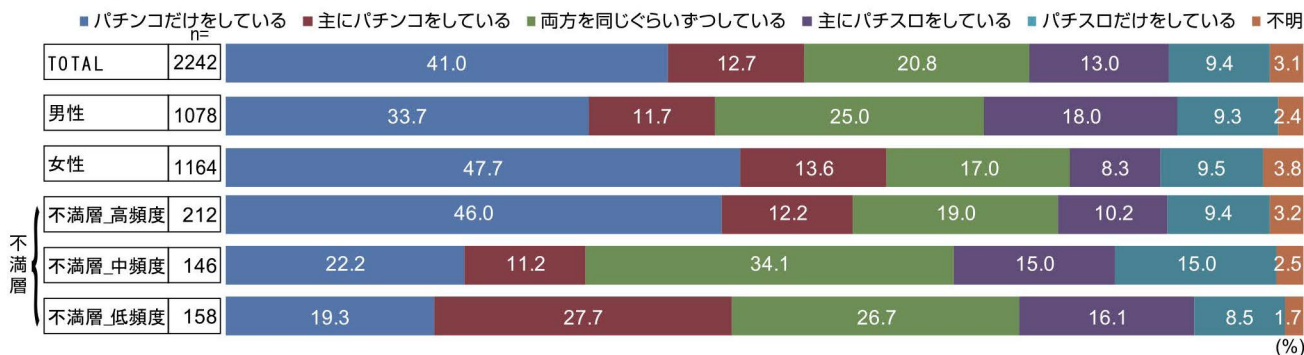
2時間までが15%、4時間までが59%を占める。このうち離反リスク層（不満層の低頻度）は2時間までが21%、4時間までが74%だった。

1か月の支出 高頻度8.3万円、低頻度2.5万円

3万円までが26%強。平均4・8万円。不満層では高頻度で8・3万円、低頻度が2・5万円。また、使い過ぎと感じる金額としては平均2・9万円で、3万円までが56・7%いた。

表8 パチンコかパチスロか 女性の6割強がパチンコ

パチンコ主体が5割強。パチスロ主体は2割強。性・年代別では、パチンコ主体は男性で4割半ば、女性で6割強。年齢が高くなるほどパチンコ主体になる。パチスロ主体は男女とも10~20代で、とくに男性10~20代は4割を占める。不満層では頻度が高まるほどパチンコ主体の割合が高い。



遊ぶパチンコのタイプ

低頻度層は「出玉」に執着

当たりやすいが出玉が少ないタイプが4割弱。このタイプは年代が高い層ほど割合が高くなっている。不満層の低頻度では、当たりづらいが出玉が多く期待できるタイプが約4割と高い。

遊ぶパチスロのタイプ

高年齢はノーマルタイプ

ARTタイプが約3割、ノーマルタイプが2割半ば。男女とも年齢が高くなるほどノーマルタイプの割合が高くなる。不満層では中頻度、低頻度でARTタイプが3割以上を占めた。

通常貸しか低貸しか

男女とも半々に分かれる

通常台主体が約5割、低貸し台主体は約4割。男性では通常台主体5割半ば。女性は通常台主体44%、低貸し台主体43・8%と伯仲。不満層で通常台主体は高頻度で5割半ば、中・低頻度で約5割。

表9 ホールの不満点

「好きな機種が少ない」

「好きな機種の台数が少ない」「居心地が良くない」「喫煙環境が自分の希望にっていない」が上位3項目。不満層では「好きな機種の台数が少ない」「居心地が良くない」を挙げるのは低頻度で高い。

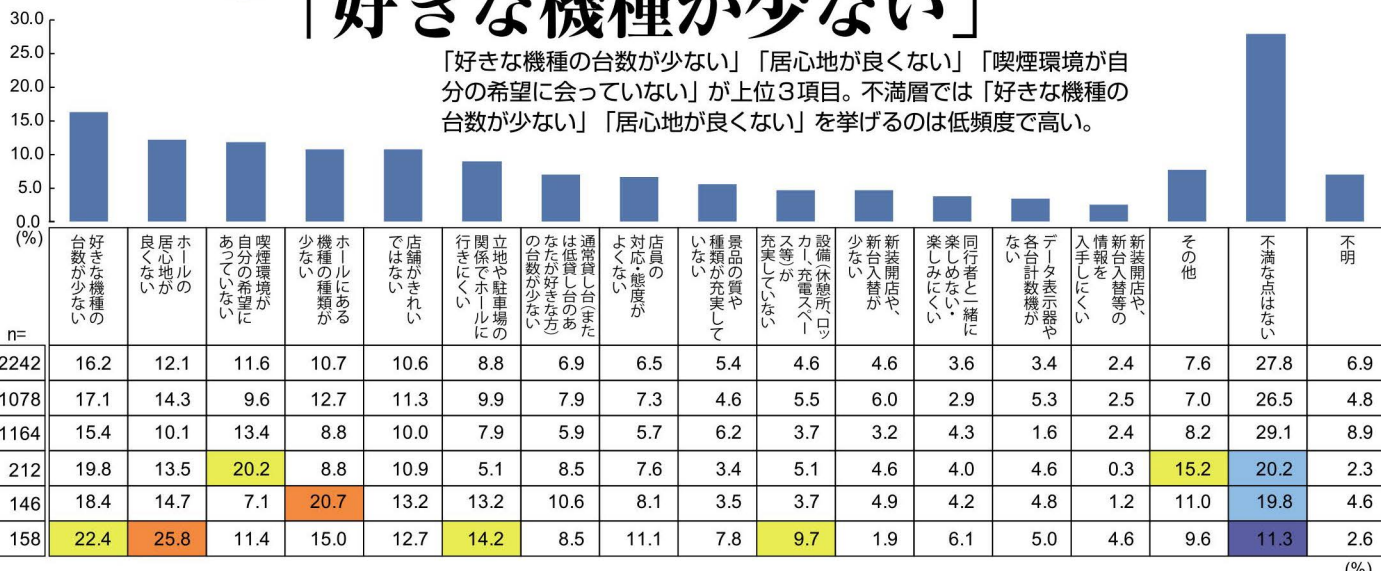


表10 パチンコの不満点

「連チャンしない」など

「あまり連チャンしない」「大当たりしにくい」「あまりお金をかけずに遊べない」が上位3項目。不満層では低頻度ほど「あまり連チャンしない」の割合が高い傾向。

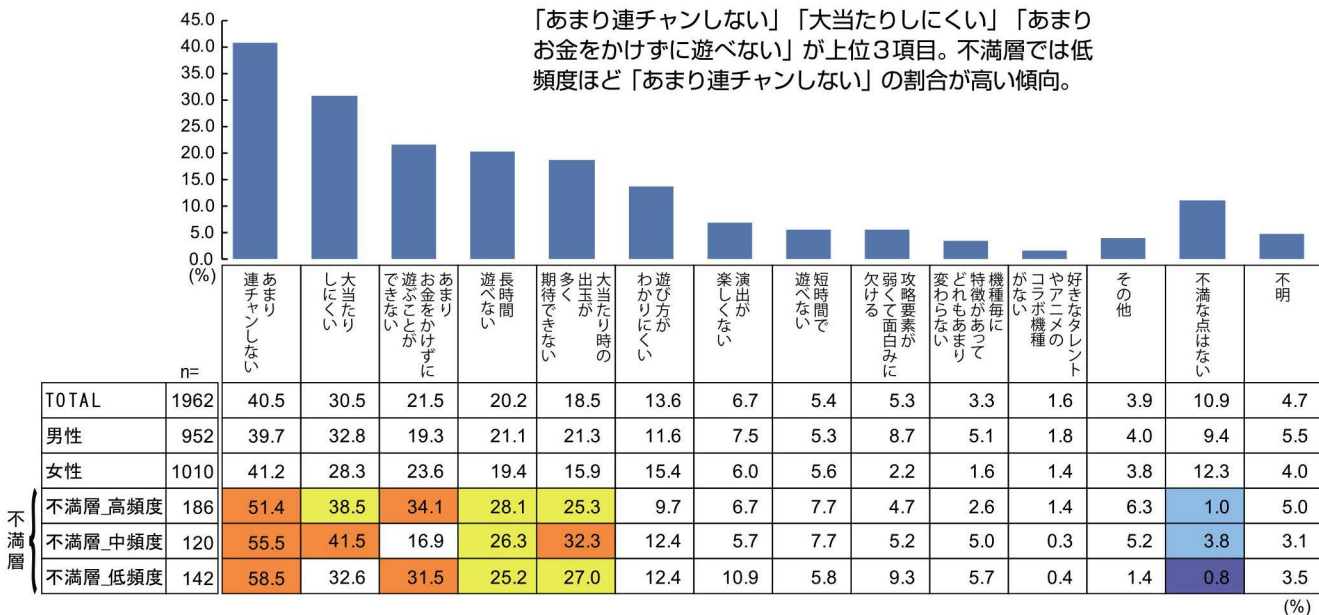
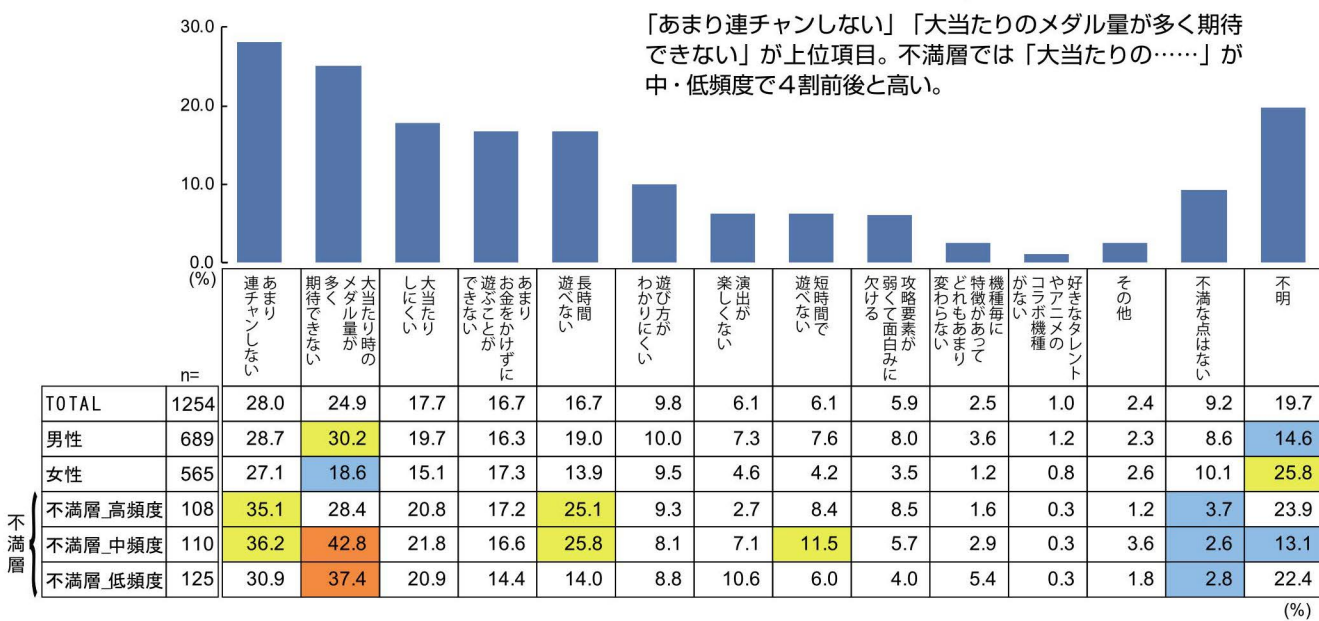


表11 パチスロの不満点

不満層は「当たりメダル量」

「あまり連チャンしない」「大当たりのメダル量が多く期待できない」が上位項目。不満層では「大当たりの……」が中・低頻度で4割前後と高い。



TOTALの数値と比較して 10%以上は 5%以上は 5%以下は 10%以下は

表12 今後もプレーを続けるか 肯定が6割、否定が1割

「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の肯定組は6割強。「そう思わない」「まったくそう思わない」の否定組は約1割。不満層では肯定組は低頻度ほど低い。

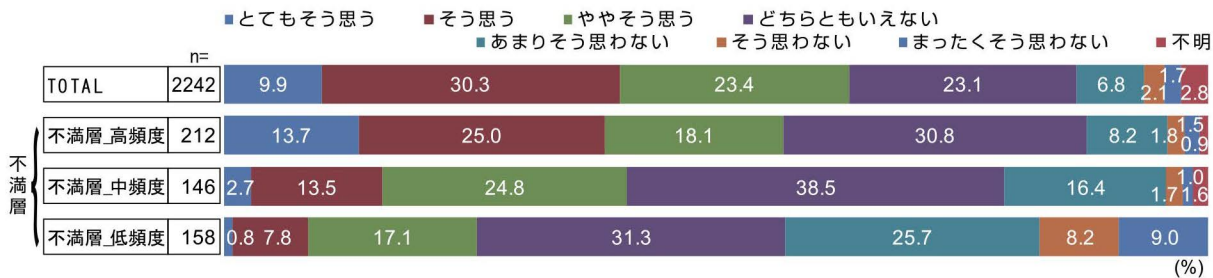
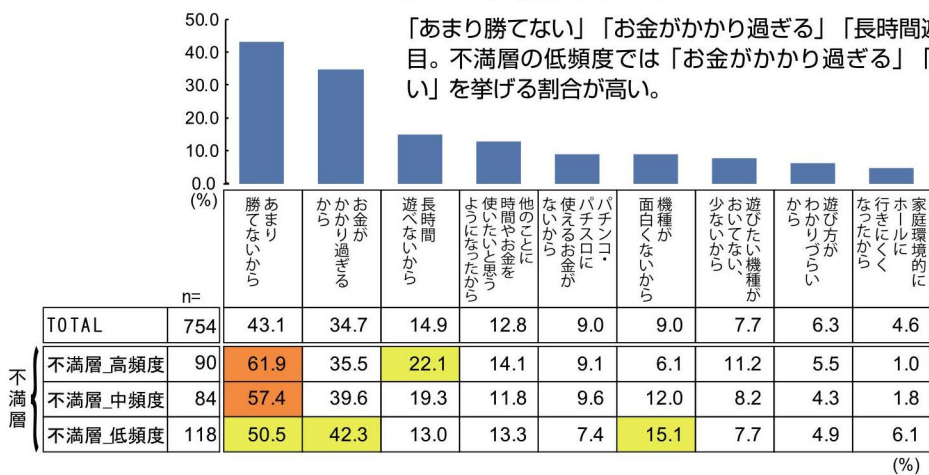


表13 やめたい理由

低頻度「お金かかりすぎ」

「あまり勝てない」「お金がかかり過ぎる」「長時間遊べない」が上位3項目。不満層の低頻度では「お金がかかり過ぎる」「機種がおもしろくない」を挙げる割合が高い。



総括＝離反リスク層・不満層への取組み

有効なネットでの情報発信 「誘う誘われる」の環境を

ホールについては、「店内の清潔感」「店員の接客態度」は必須事項。60歳以上は不満でも来店頻度が高く、貢献度も高いので、喫煙環境など環境面の整備も重要。

機器については、「連チャン」「大当たり」（「快樂」ニーズ）の不満解消が第一。「当たりの楽しみを味わえる」機種や、少額で遊べる、機種の開発も必要。機種、台数を充実させる環境づくりが肝要となる。60代以上は「遊び方のわかりやすさ」「長時間遊べる」も挙げられている。

来店促進策として、とくに若い人にはインターネット、SNS、会員メールなどでの定期的な情報発信が有効と思われる。さらにホールに行く回数が増えた理由に「家族、友人と行く機会が増えた」が多くあるほか、10～20代で「誰かに誘われて」が来店動機となっているので、これらを施策に取り入れたい。